

■効果の見える治水事業

徳島県 北山地区(名東郡佐那河内村)の治水事業 「北山地すべり対策事業」

徳島県県土整備部河川局砂防防災課長 津田 修



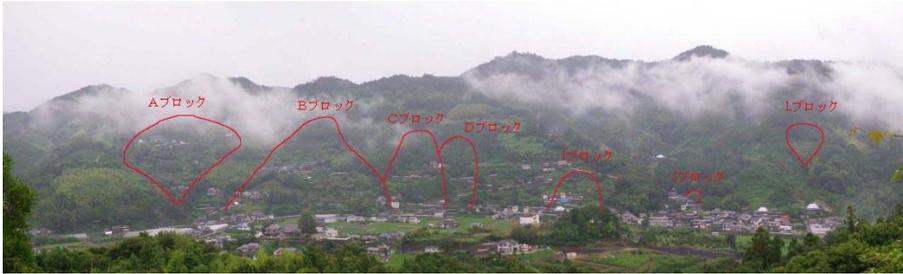
本県は、地すべり防止区域が指定地数・面積とも全国2位の多さであり、これまで幾多の地すべり災害により甚大な被害を受けてきました。佐那河内村におきましても、地すべり防止区域が多く存在し、地すべり等防止法制定の昭和33年度より地すべり対策事業を継続して実施しています。

平成16年10月の台風23号は、全国的に多くの土砂災害をもたらしましたが、佐那河内村北山地区においては、連続雨量516mm、最大時間雨量69mmの豪雨により、幅50m、高さ50m、斜面長100mの地すべり(Lブロック)が発生し、斜面下方にある人家10戸が危険な状態となりました。

このため、佐那河内村と連携して警戒避難体制を構築するとともに、アンカー工、横ボーリング及び水路工の整備を行い、斜面の安全度を高めることとしました。平成18年度にLブロックは対策が完了し、その後は、周辺のブロックにおいても工事を進め、本年度をもって予定していた全ての工事が完了できる見込みとなりました。

近年は、局地的な集中豪雨など気象現象が激化する傾向が顕著になっています。一方、土砂災害危険箇所が多い中山間地域では、過疎化や高齢化が進行しています。これらの自然条件、社会条件の変化に対応し、ハード・ソフト一体となった的確な土砂災害対策を進め、県民の安全・安心をしっかりと守って参りたいと考えています。

全景



【事業概要】

- ・事業名 地すべり対策事業
- ・事業費 560,000千円
- ・事業期間 平成15年度～平成22年度
- ・保全対象 人家54戸、国道438号1.6km
- ・整備内容 アンカー工49本、横ボーリング6,490m、水路工780m



Lブロック完成写真

「安全・安心な村づくり」

徳島県 佐那河内村長 松尾 肇



佐那河内村は、徳島県の中東部に位置し、東西9.5km、南北4.5kmの平行四辺形の盆地状を呈しており、総面積は42.3km²です。西北は神山町、南は旭ヶ丸を分水嶺として勝浦町、上勝町に界し、東は徳島市に隣接しています。旭ヶ丸に湧き源を持つ園瀬川が村内を東流して、その流域の標高70m付近には小盆地や小平野を形成しており、古くから農業を基幹産業として栄えてきました。現在でも「すだち」、「大福みかん」、「ももいちご」、「しいたけ」、「大川原ねぎ」をはじめとするブランド農産物を生産していますが、農業従事者の高齢化と後継者不足の問題を抱えています。昭和30年代から毎年約30人近い人々が本村から去り、平成17年の国勢調査で総人口2,800人、844世帯となっており、人口の減少や高齢化が進んでいます。また近年、自然保護や生活環境などの問題が大きくクローズアップされており、これらの問題を踏まえ、「キラリ輝くうおい豊かな村」をテーマに“水・土・里を育む村づくり”を推進しています。

佐那河内村における国土交通省・農林水産省の地すべり防止区域は、本村全体の約3割が指定されております。今後30年の間に60%の確率でやってくるといわれている南海地震や、ゲリラ的集中豪雨など、いざというときに備えるため、総合防災訓練を行っています。

村消防団は、長雨による水害を想定し、土のう積工法等水防訓練と油圧式災害救助器具を使用した救助訓練を行い、日赤佐那河内分区分では避難所設置訓練として大釜を使った炊き出し訓練を行いました。一般参加者に対しても、消火器を使った消火訓練・家庭でも使えるロープワーク講習及び三角巾を使った応急救護講習を行いました。

さらに、平成21年3月には、土砂災害危険箇所・緊急避難場所及びAED設置箇所等を記載した「佐那河内村防災マップ」を村内全戸に配布し、防災に対する意識高揚を図っています。

また、村内47地区の自治会及び各種団体を対象とし、人命救助にも対応できるように、AED講習会を開催しています。

このように、村、各種団体、さらには一般住民の防災意識の高揚に向けての訓練・啓発をおこない、突然やってくる災害に対応できる、安全で安心な村となるよう努めて参りたいと考えておりますので、関係諸機関の皆様には今後ともご指導、ご協力くださいますようお願いいたします。



土嚢積工法等水防訓練



油圧式災害救助器具を使用した救助訓練



炊き出し訓練



消火訓練



ロープワーク講習